

[3] 中心市街地の現状分析

(1) 中心市街地の変遷

川越の市街地は、江戸時代より川越に富をもたらした新河岸川舟運が、明治 28 年に川越鉄道（現、西武新宿線）大正 3 年に東上鉄道（現、東武東上線）が敷設されたことで衰退し、商業の中心が北部地域から南部地域へと移動し始め、市街地構造の変化を迎えることとなる。

昭和に入ると、川越耕地整理が市街地南部で行われ、市街地を南北に通り返ける中央通りができたことで、商業の中心の南下に拍車がかかることになる。

戦禍を免れたことで、市街地自体の様相に大きな変化のないまま、昭和 30 年に隣接 9 ヶ村を合併し、現在の市域を形成する。また、川越駅、本川越駅周辺に大型店舗が進出し始め、現在の中心商業地の基礎を形成する。

そのため現在の中心市街地は、川越城跡、寺社、蔵造りの町並みなどがある北部地域と、鉄道三駅が集中し商業・業務の中心となっている南部地域により形成されている。

(2) 中心市街地の資源や既存ストック状況の分析と有効活用方法の検討

歴史的・文化的資源、景観資源

中心市街地の北部地域には、江戸時代の歴史的遺産である川越城の城跡に一部現存する本丸御殿、中ノ門堀跡のほか、富士見櫓跡等の未整備の遺構が残っている。また、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている蔵造りの町並みについては、江戸初期の城下町の町割の上に主として明治初期から末期に建築された重厚な蔵造り町家を中心に近代洋風建築等も含めた伝統的建造物が建ち並び、特色ある歴史的景観を良く伝えている。さらに大正時代を偲ばせる建物を現代に残す大正浪漫夢通りのほか、その付近には明治から昭和の時代に建てられた酒蔵跡地を活用した川越市産業観光館（小江戸蔵里）や、明治時代の産業遺構である旧織物市場や旧芝居小屋の跡地等もあることから、中心市街地には多数の歴史的・文化的資源が保存・蓄積されている。

これらは川越市民の誇りであり、今後もまちの資源として受け継ぐべきものであることから、中心市街地の活性化策を展開していく中で、配慮していくべきものである。

社会資本、産業資源

中心市街地の南部地域においては、川越駅や本川越駅、クリアモール等を中心に、昭和から平成にかけての商業施設等が集積している地域である。

また、川越駅や本川越駅は公共バスの始発地点となっており、それらを中心にマンションの建設も進んでいる状況である。

公共公益施設や都市福利施設については、中心市街地の区域内に市役所、消防署、商工会議所等が立地しているほか、クラッセ川越（文化的複合施設）、初雁公園（運動公園）や川越まつり会館等の集客性の高い施設が整備されているとともに、川越駅西口に埼玉県、民間事業者との複合拠点施設である西部地域振興ふれあい拠点（ウェスタ川越）が平成 27 年にオープンしている。また、救急指定病院が 2 箇所、県立高等学校が 2 校等も立地しており、多様な都市機能が集積している。

公共交通については、JR 川越線川越駅、東武東上線川越駅、川越市駅、西武新宿線本川越駅の 3 線 3 駅が立地し、川越駅、本川越駅は西武バス、東武バスウェスト、イーグルバス等の路線バス、学校や企業の送迎バス等のほか、長距離バスの発着点があり、公共交通の利便性が高い地域である。

(3) 中心市街地の現状に関する統計的データの把握・分析

人口・世帯数の状況

ア 人口・世帯数

平成 26 年の川越市全体の人口・世帯数については、第 1 期計画策定時の平成 21 年と比較して、人口が 4.9%、世帯数が 10.1%とそれぞれ増加している。一方、中心市街地の人口・世帯数については、人口が 5.3%、世帯数が 10.9%とそれぞれ増加しており、市全体の増加率より中心市街地の増加率が上回っている。

一方、中心市街地の 5 地区のうち、歴史的町並み地区において、世帯数、人口ともに減少が見られる。また、川越市駅周辺地区において、人口の減少が見られる。

【人口・世帯数の推移】		(単位:世帯、人、%)						
区分	12年	17年		21年		26年		
	数値	数値	伸び率	数値	伸び率	数値	伸び率	
世帯数	川越駅西口周辺地区	2,980	3,696	24.0%	3,926	6.2%	4,386	11.7%
	川越市駅周辺地区	1,337	1,388	3.8%	1,433	3.2%	1,561	8.9%
	川越駅・本川越駅東地区	2,342	2,618	11.8%	2,951	12.7%	3,351	13.6%
	中央通り周辺地区	1,701	2,046	20.3%	2,153	5.2%	2,506	16.4%
	歴史的町並み地区	1,696	1,766	4.1%	1,830	3.6%	1,823	-0.4%
	中心市街地計	10,056	11,514	14.5%	12,293	6.8%	13,627	10.9%
	川越市合計	117,049	126,514	8.1%	134,390	6.2%	148,007	10.1%
人口	川越駅西口周辺地区	6,681	7,979	19.4%	8,223	3.1%	8,840	7.5%
	川越市駅周辺地区	3,207	3,119	-2.7%	3,046	-2.3%	3,012	-1.1%
	川越駅・本川越駅東地区	5,054	5,368	6.2%	5,833	8.7%	6,204	6.4%
	中央通り周辺地区	4,149	4,523	9.0%	4,594	1.6%	5,226	13.8%
	歴史的町並み地区	4,661	4,531	-2.8%	4,499	-0.7%	4,307	-4.3%
	中心市街地計	23,752	25,520	7.4%	26,195	2.6%	27,589	5.3%
	川越市合計	324,063	328,415	1.3%	332,360	1.2%	348,595	4.9%

注・人口、世帯数とも住民基本台帳によるもの(各年1月1日現在)

イ 昼夜間人口

平成7年の国勢調査を境に、昼夜間人口比率は増加傾向にある。

平成22年の国勢調査の昼間人口は332,876人、夜間人口は342,670人で、平成17年と比較すると、昼間人口は3.9%増加、夜間人口は3.3%の増加、昼夜間人口比率は0.6ポイントの上昇となっている。

その主な要因としては、流出口と流入人口の差が減少傾向にあることなどにより昼夜間人口比率を押し上げている。

【昼夜間人口の推移】						
年	夜間人口	流出人口	流入人口	流出人口－ 流入人口	昼間人口	昼夜間人口比率
平成2年	304,426	95,545	73,547	21,998	282,428	92.8%
7	323,202	103,379	78,084	25,295	297,907	92.2
12	330,402	97,196	76,226	20,970	309,432	93.7
17	331,836	90,666	79,116	11,550	320,286	96.5
22	342,670	86,045	76,251	9,794	332,876	97.1

国勢調査人口の集計(一部加工)
年齢「不詳」を含まない。
は労働力状態「不詳」を含む。

【15歳以上常住地及び従業・通学地】			(単位:人)			
区分			17国調	22国調		
				数値	増減	伸率
常住地 による 人口 居住者は昼 間どこへ行 く か	総数	計	184,727	172,130	12,597	-6.8%
		就業者	164,573	153,178	11,395	-6.9%
		通学者	20,154	18,952	1,202	-6.0%
	市内へ	計	94,686	78,015	16,671	-17.6%
		就業者	85,715	71,173	14,542	-17.0%
		通学者	8,971	6,842	2,129	-23.7%
	市外へ (流出)	計	90,041	94,115	4,074	4.5%
		就業者	78,858	82,005	3,147	4.0%
		通学者	11,183	12,110	927	8.3%
従業地・ 通学地 による 人口 昼間人口は どこから来 ているか	総数	計	172,685	152,879	19,806	-11.5%
		就業者	146,647	129,429	17,218	-11.7%
		通学者	26,038	23,450	2,588	-9.9%
	市内 から	計	94,686	78,015	16,671	-17.6%
		就業者	85,715	71,173	14,542	-17.0%
		通学者	8,971	6,842	2,129	-23.7%
	市外 から (流入)	計	77,999	74,864	3,135	-4.0%
		就業者	60,932	58,256	2,676	-4.4%
		通学者	17,067	16,608	459	-2.7%
国勢調査人口の集計						

ウ 少子化率・高齢化率

平成 26 年の市全体と中心市街地の人口構成を見ると、年少人口は、市全体の 13.1%に対し中心市街地は 10.7%と構成比は低く、生産年齢人口は、市全体の 63.6%に対し中心市街地は 66.8%と構成比が高くなっている。また、老年人口は、市全体の 23.3%に対し中心市街地は 22.3%と構成比は同程度となっている。

また、平成 26 年と平成 12 年の住民基本台帳人口を比較すると、年少人口については、市全体では、2.3%減少しているが、中心市街地では 5.8%の増加となっており、老年人口については、市全体では、105.6%と大幅に増加しているものの、中心市街地では、43.1%となっており、市全体の増加率と比較するとそれほど大幅な増加とはなっておらず、市全体から見ると少子高齢化の進行度合いは低くなっている。

この主な要因は、生産年齢人口の増加率が市全体に比べ高く、中心市街地の中にマンションが建築されていること等から、中心市街地に子育て世代が増加していることの表れと推測される。

区分		全体人口		年少人口 15歳未満		生産年齢人口 15～64歳		老年人口 65歳以上	
		市全体	中心市街地	市全体	中心市街地	市全体	中心市街地	市全体	中心市街地
12年	人口	324,063	23,752	46,900	2,814	237,669	16,615	39,494	4,323
	構成比	100.0%	100.0%	14.5%	11.8%	73.3%	70.0%	12.2%	18.2%
17年	人口	328,415	25,520	45,255	2,895	230,920	17,711	52,240	4,914
	構成比	100.0%	100.0%	13.8%	11.3%	70.3%	69.4%	15.9%	19.3%
	伸率	1.3%	7.4%	-3.5%	2.9%	-2.8%	6.6%	32.3%	13.7%
22年	人口	335,240	26,421	44,792	2,968	221,368	17,887	69,080	5,566
	構成比	100.0%	100.0%	13.4%	11.2%	66.0%	67.7%	20.6%	21.1%
	伸率	2.1%	3.5%	-1.0%	2.5%	-4.1%	1.0%	32.2%	13.3%
26年	人口	348,595	27,708	45,810	2,976	221,571	18,545	81,214	6,187
	構成比	100.0%	100.0%	13.1%	10.7%	63.6%	66.8%	23.3%	22.3%
	伸率	4.0%	4.9%	2.3%	0.3%	0.1%	3.7%	17.6%	11.2%
	趨勢比 対12年	7.6%	16.7%	-2.3%	5.8%	-6.8%	11.6%	105.6%	43.1%

注. 各年1月1日現在の住民基本台帳人口

街なか居住に関する状況

中心市街地の区域内では、これまでコンスタントにマンションの建築が行われており、区域内の人口増加の大きな要因となっていたが、平成22年以降はマンションの供給ペースが、建築棟数、戸数ともに低下している状況にある。

【中心市街地のマンション建設状況】												
区分	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
棟数	0	5	3	4	5	6	0	3	4	3	1	1
戸数	0	284	185	270	398	283	0	109	211	336	91	34
建築累計戸数	954	1,238	1,423	1,693	2,091	2,374	2,374	2,483	2,694	3,030	3,121	3,155

(川越市)

都市基盤整備等の状況

ア 市街地整備の状況

川越駅東口地区で昭和57年に川越駅前脇田町第1種市街地再開発事業(1.10ha)が、平成2年に川越駅東口第1種市街地再開発事業(1.80ha)が完了している。

また、川越駅西口地区では、川越駅西口土地区画整理事業(16.15ha)のうち、昭和52年に第1工区(9.95ha)が、平成19年に第2工区(6.20ha)が完了している。

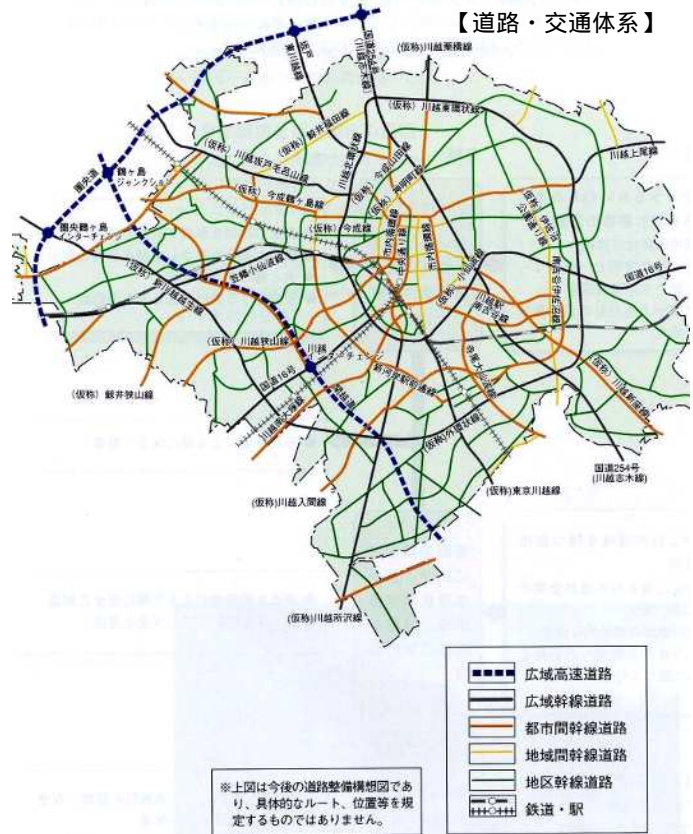
第5次首都圏基本計画において、川越市及び周辺地域が東京都市圏の広域連携拠点として業務核都市に位置付けられ、川越駅西口周辺地区は業務施設集積地区としての整備が期待される中で、埼玉県、民間事業者との共同事業である西部地域振興ふれあい拠点(ウェスタ川越)が平成27年にしている。

結節地域では、本川越駅から連雀町交差点の間で、中央通り沿道街区土地区画整理

事業(約1.5ha)が区域決定され、平成27年度完了を目指し事業推進が図られている。

このように、市街地整備は南部地域の川越駅周辺を中心に実施されており、施行区域面積の中心市街地面積に対する割合は8.0%と低い状況である。

また、市内の道路網については、中心市街地から放射状に伸びる構造となっているため、中心市街地への交通集中が問題となっている。都市計画道路の平成25年度末(平成26年3月31日現在)整備率は、市内40計画路線の計画延長110.76kmに対し、整備率44.0%、整備延長48.74kmと低い水準である。これを中心市街地について見ると、20路線で計画決定をしており計画延長16.25kmに対して、整備済延長5.40kmで、整備率は33.2%と市域全体の整備率を下回っている。



【川越市都市計画マスタープランより抜粋】
この図は都市計画道路及び構想路線等を含む

イ 土地利用の状況

中心市街地の用途地域指定の状況は、中心市街地面積約255haのうち約54%が商業系、約42%が住居系、約2%が工業系、残りの2%が都市計画公園・緑地の用途指定がされている。

実際の土地利用は、住居系利用が大半を占め、三駅(川越駅、本川越駅、川越市駅)周辺、クリアモール沿道、中央通り沿道に商業・業務系利用が集中している。

北部地域には、寺社地等が多く分布している他、市役所、学校等の公共施設が立地している。また、中央通り沿道に川越市伝統的建造物群保存地区(約7.8ha)の都市計画決定がされている。

三駅周辺地区のうち、本川越駅から川越駅東口までの間のクリアモール沿道に大型店舗を含めた多くの商業施設が集積され、中心商業地を形成している。また、その商業地を囲むように住居系利用がされている。本川越駅から川越市駅の間は、両駅周辺で商業系の土地利用が図られている以外は、概ね住居系の利用で占められている。

また、川越駅西口周辺地区では、これまで川越駅南大塚線沿道に商業・業務系の集積と飲食店等を中心にした小規模な店舗の集積が図られていたが、西部地域振興ふれあい拠点(ウェスタ川越)に商業施設が整備されたことで、商業・業務のさらなる集

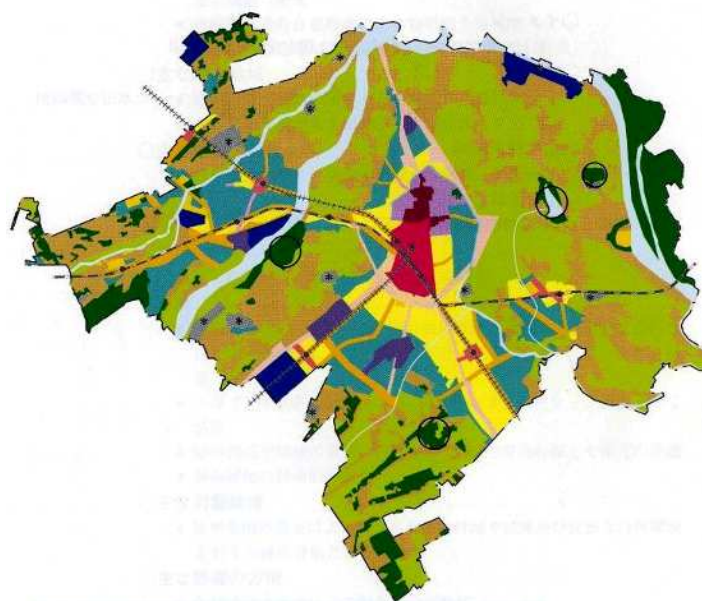
積が見込まれる。

中心市街地全体では、駅周辺やクレアモール沿道で3階以上の建築物が集中している以外は、2階以下の建築物が多く、建築密度は比較的低い。

中心市街地の工業施設は、小規模な施設が全域に住居と混在する形で点在している。

【川越市都市計画マスタープランより抜粋】

公園整備の状況は、都市計画決定をした街区公園が1箇所(脇田本町公園：面積0.06ha)、未決定の街区公園が4箇所(濯紫公園：面積0.38ha、御野立の森公園：面積0.06ha、通町公園：面積0.13ha、喜多院公園：面積0.20ha)、都市計画決定をした運動公園が1箇所(初雁公園：4.49ha)、未決定の歴史公園が1箇所(川越城中ノ門堀跡公園：面積0.11ha)、未決定の広場公園が1箇所(クレアパーク：面積0.13ha)、未決定の都市緑地が1箇所(川越駅東口緑地：面積0.06ha)の9箇所(面積が5.62ha)となっている。また、5箇所のポケットパーク(面積：0.05ha)、4箇所の児童遊園(面積：0.11ha)が整備されている。中心市街地の都市公園の整備率は $2.10 \text{ m}^2/\text{人}$ となっており、市全域 $4.62 \text{ m}^2/\text{人}$ に比べて低いものとなっている。



中心市街地の緑は、中心市街地北部地域を中心に多数点在する寺社地内の緑やわずかに残る屋敷林等により潤いが保たれている。

ウ 公共交通の状況

中心市街地の鉄道については、JR川越線及び東武東上線「川越駅」、西武新宿線「本川越駅」並びに東武東上線「川越市駅」の三駅が位置する。

この鉄道三駅は都心への通勤等に利用されており、平成24年の一日平均の乗車人員については、東武東上線川越駅が6.1万人で最も多く、JR川越線川越駅が3.6万人、西武新宿線本川越駅が2.4万人、東武東上線川越市駅が1.7万人で合計13.8万人とな

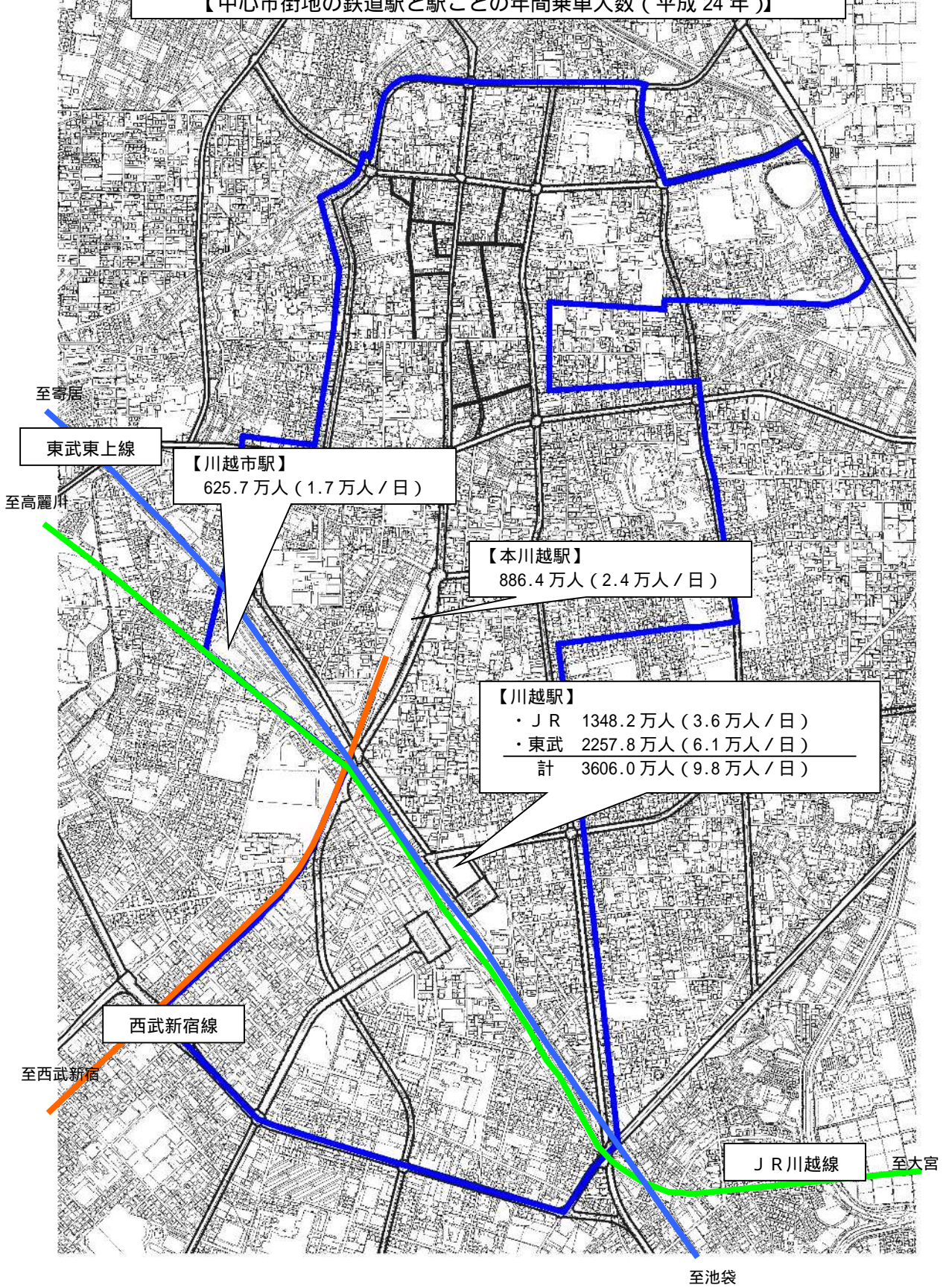
っている。各駅の年間乗車客数を見ると、平成17年から平成20年までは増加傾向が見られ、平成21年から平成23年までは減少傾向が続くが、平成24年には再び増加している。ただし、川越市駅については、平成23年に一時落込みが見られるが、平成24年まで増加傾向となっている。

また、東西、南北に鉄道が走るため、踏切の箇所も多く、朝のピーク時には、中心市街地のとりわけ南北間の道路での交通渋滞が著しい状況となっている。

中心市街地のバス路線については、東武バスウエスト、西武バス、イーグルバスが乗入れ、川越駅、本川越駅を起点として市郊外へ伸びる路線網や観光用の路線を形成しており、市民及び観光客の移動手段の役割を担っている。

年間乗車客数						(単位:人)	
区分	中心市街地区域内				中心市街地 以外の駅 (8駅)の計	合計	
	東日本旅客鉄道	東武鉄道		西武鉄道			
	川越駅	川越市駅	本川越駅	中心市街地 小計			
平成13年	12,876,332	21,269,124	6,272,016	8,834,765	49,252,237	25,148,199	74,400,436
平成14年	12,839,548	21,152,092	6,167,676	8,861,301	49,020,617	24,855,395	73,876,012
平成15年	12,909,782	21,456,923	6,089,384	8,916,138	49,372,227	24,687,284	74,059,511
平成16年	13,037,290	21,538,239	5,975,925	8,811,912	49,363,366	24,458,333	73,821,699
平成17年	13,194,385	21,499,550	5,925,314	8,730,049	49,349,298	24,298,169	73,647,467
平成18年	13,503,727	21,631,874	5,946,563	8,772,849	49,855,013	24,337,480	74,192,493
平成19年	13,839,187	22,194,573	5,967,672	8,772,885	50,774,317	24,494,297	75,268,614
平成20年	13,847,791	22,442,793	6,114,637	8,907,639	51,312,860	24,593,519	75,906,379
平成21年	13,541,040	22,289,786	6,185,306	8,871,458	50,887,590	24,376,092	75,263,682
平成22年	13,425,018	22,231,917	6,220,082	8,745,202	50,622,219	24,144,790	74,767,009
平成23年	13,302,118	22,230,458	6,187,296	8,697,611	50,417,483	23,908,735	74,326,218
平成24年	13,482,002	22,578,845	6,257,933	8,864,413	51,183,193	24,183,990	75,367,183
各鉄道会社調べ							

【中心市街地の鉄道駅と駅ごとの年間乗車人数（平成 24 年）】



観光の状況

「小江戸」と呼ばれる本市には、「蔵造りの町並み」、「時の鐘」、「菓子屋横丁」など魅力ある観光資源が多くあり、それらは主に中心市街地内に位置している。また、「川越まつり」等の観光事業も豊富なことから、平成 25 年には、年間約 630 万人の観光客が訪れている。平成 25 年度の観光アンケート調査の結果等によると、本市の観光客は、ほとんどが日帰り観光客であり、観光時間については、半日までが全体の約 9 割を占め、さらに半日にも満たないものが全体の約 45%を占めている、50 歳以上の年齢層が約 6 割を占めており、無料休憩所の要望も多い、平成 17 年調査と比べて、初めて川越市を訪れた観光客の割合が約 3 割から約 5 割に増加しているが、リピーターの割合も多く、特に、来訪回数が 4 回目以上という観光客が約 2 割を占めている、来訪する交通手段については、鉄道と自家用車の利用が多いが、特に鉄道利用が 5 割を超えている、観光案内所利用者数からも、外国人観光客は年々増加傾向にある等の特徴がある。また、中心市街地に立地する代表的な観光施設（川越まつり会館、蔵造り資料館、博物館、美術館、川越城本丸御殿）の入館実績を見ると、1 日平均で平日 670 人、休日 1,225 人（約 4：6）となっており、平日においても観光ニーズが相当数存在している。さらに、平成 25 年 3 月から、鉄道 5 社による相互直通運転が開始され、川越から横浜方面まで繋がり、交通の利便性が向上しているほか、2020 年の東京オリンピック競技大会のゴルフ競技が、川越市で開催される予定となっており、集客等の効果が期待されている。

北部地域に位置する一番街周辺、とりわけ仲町交差点から札の辻交差点の間は、本市でも一番の観光スポットである「蔵造りの町並み」があるため、観光客の 9 割以上が訪れるエリアとなっている。そのため、車で訪れる観光客が駐車場を探すためのうろつきによる渋滞や、駐車場の空きを待つ車による渋滞が見受けられる状況である。特に土日祝日は歩行者の安全確保が難しい状態になっている。

また、札の辻交差点から郊外型駐車場の間は、交差点改良、道路整備、市役所駐車場の土日解放、観光バス乗降場の整備により、交通環境が改善されたものの、依然として自動車による渋滞が発生することがある。

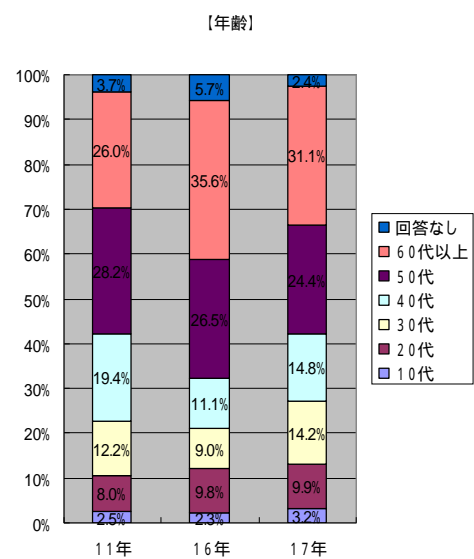
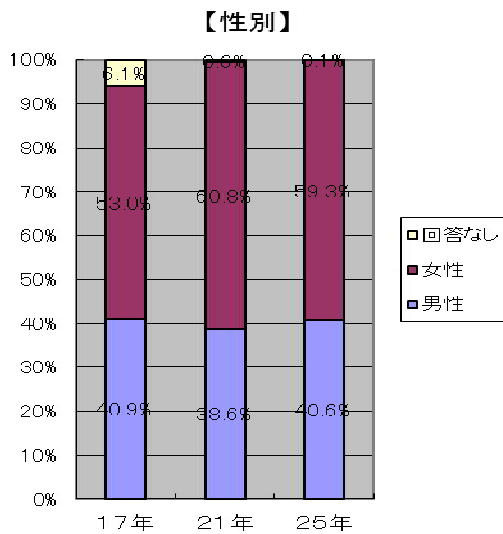
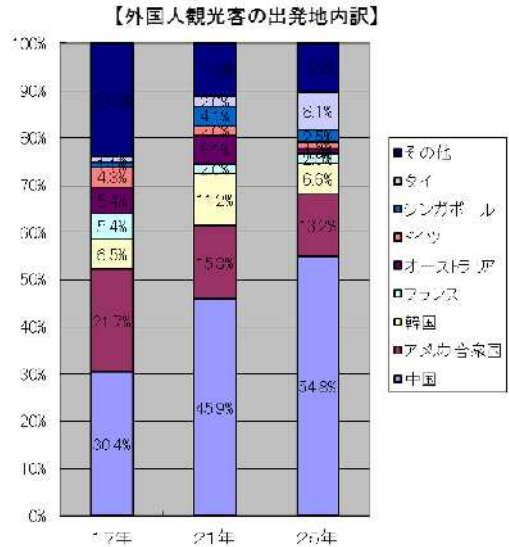
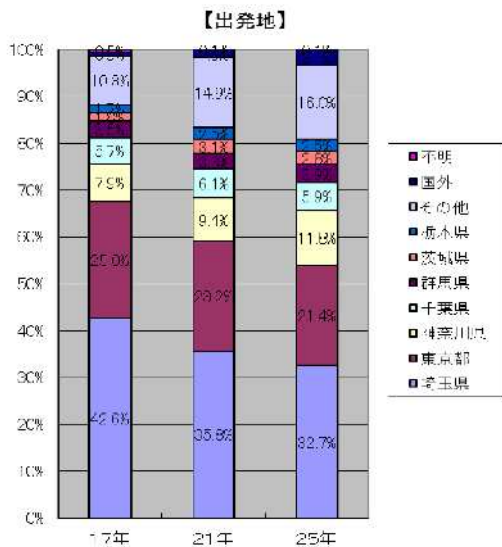
観光客が多く訪れる一番街周辺のトイレは道路に面していないため、観光客にわかりづらいものになっている。また、多目的・多機能トイレやおむつ交換台が少ないなど、利便性が悪いのが現状である。

一番街以外では、喜多院や川越城本丸御殿に立寄るほかは、多くの場所で観光客が立寄る割合が 10%を下回るといって、非常に厳しい状況となっている。

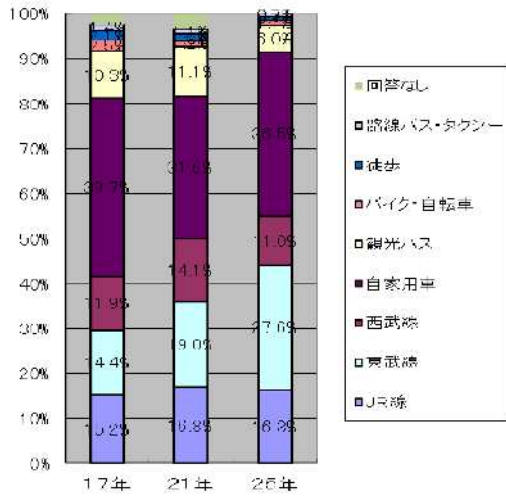
また、観光アンケート調査が示す観光客の消費活動の状況を比率で見ると、平成 25 年度では、宿泊費を使わない（支出しない）人が全体の 98.2%、飲食費を使わない人が全体の 6.9%、土産品を買わない人が全体の 12.9%を占めている。状況である。アンケートの調査時期、サンプル数、調査項目に多少の差異はあるため単純比較はできないが、第 1 期計画策定年度の平成 21 年度に実施したアンケート調査の類似項目と比較

すると、宿泊をしない人は0.3ポイント減(98.5%)、食事をしない人は2.9ポイント減(9.8%)、土産品を買わない人は1.1ポイント増(11.8%)となっている。

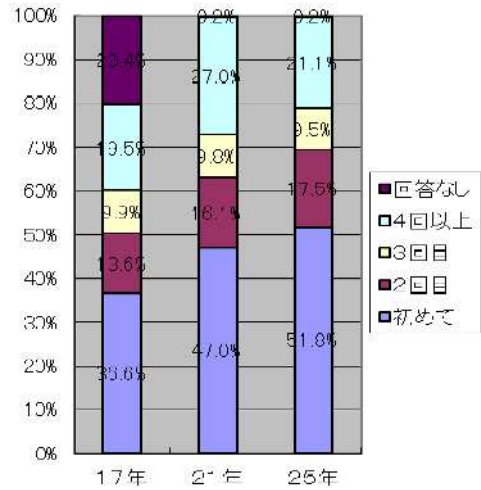
【川越市観光アンケート調査結果】



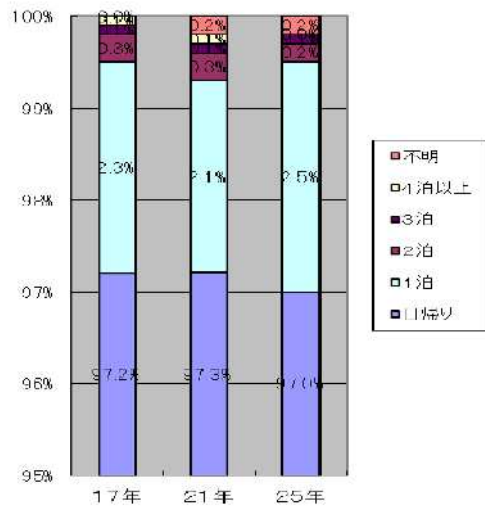
【交通手段】



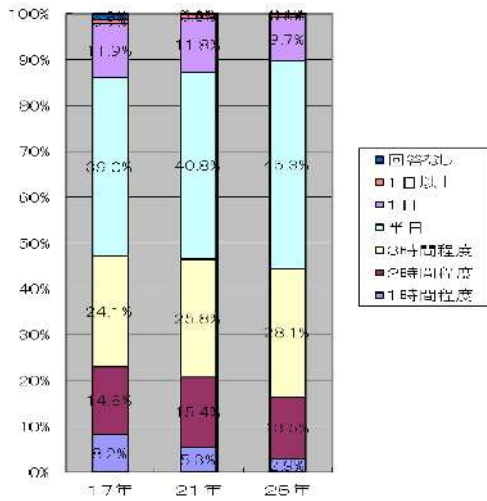
【来訪回数】



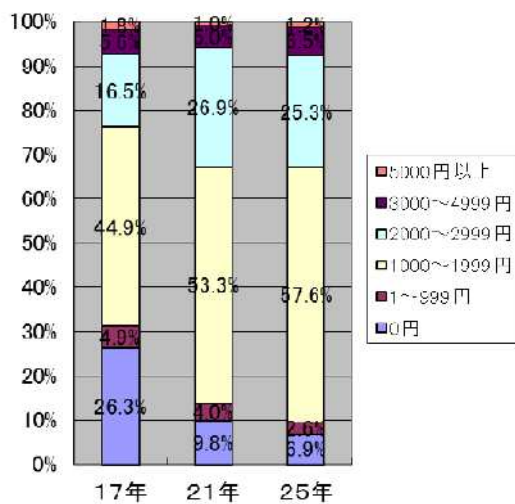
【滞在期間】



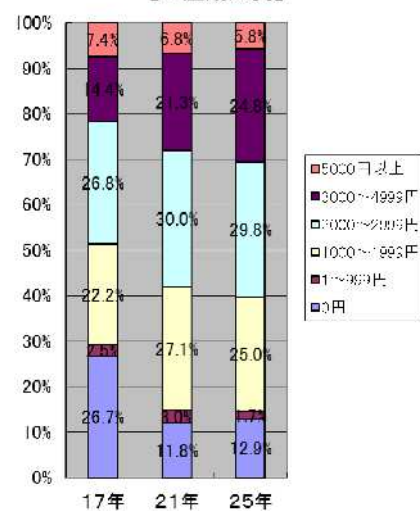
【観光時間】

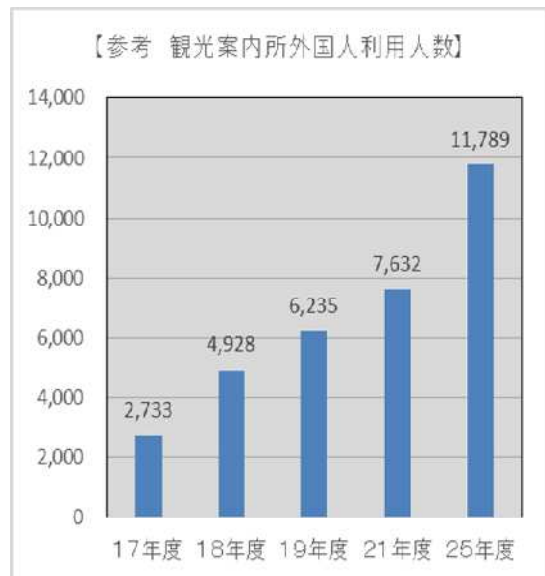
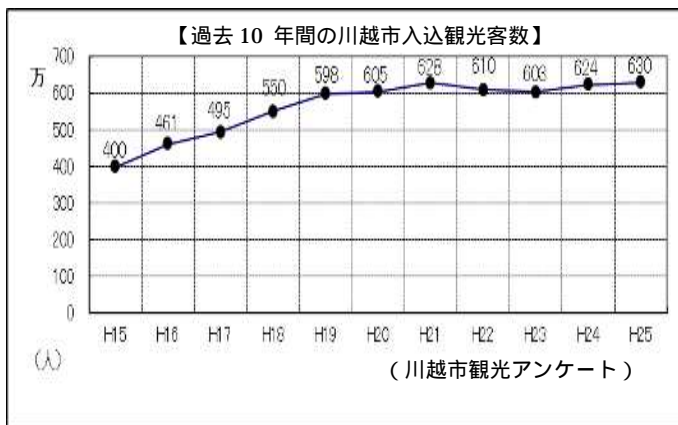
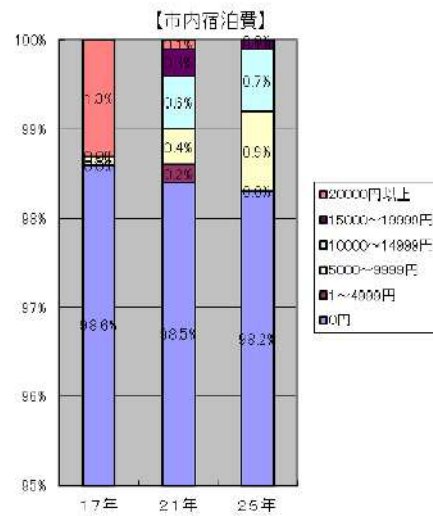
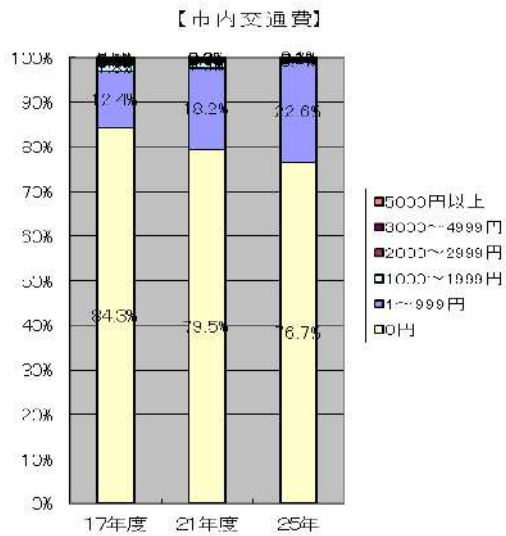


【市内飲食費】



【土産購入費】





商業・にぎわいに関する状況

ア 小売業に関する事業所数、従業員数、年間販売額、売場面積

平成24年経済センサス活動調査によると、小売業は本市全体で2,075事業所、中心市街地は730事業所となっており、中心市街地の事業所数のシェアは35.2%を占めている。平成21年経済センサス基礎調査では、小売業は本市全体で2,240事業所、中心市街地は755事業所となっており、中心市街地の事業所数のシェアは33.7%を占めている。中心市街地の事業所数のシェアは上昇しているが、事業所数は本市全体、中心市街地ともに減少している。

平成16年度商業統計調査によると、小売業の商店数は本市全体で2,236店、従業員数17,902人、年間商品販売額約3,330億8千万円、売場面積320,170㎡となっている。これを中心市街地の商業集積地で見ると、商店数679店（シェア30.4%）、従業

員数 5,110 人(シェア 28.5%)、年間商品販売額約 1,075 億 5 千万円(シェア 32.3%)、売場面積 117,952 m²(シェア 36.8%)となっている。

平成 14 年度の同調査と比較すると、中心市街地商業集積地で商店数 38 店(5.3%)の減少、従業員数 546 人(9.7%)の減少、年間商品販売額約 92 億 5 千万円(7.9%)、売場面積 1,981 m²(1.7%)の減少となっている。とりわけ、年間商品販売額については、市全体では 2.6%増加している中での減少となっている。

	平成 9 年度		平成 11 年度		平成 14 年度		平成 16 年度		伸び率	
	実数	シェア	実数	シェア	実数	シェア	実数	シェア		
中心市街地	商店数	748	30.2%	-	-	717	30.4%	679	30.4%	-5.3%
	従業員数	4,993	31.0%	簡易調査につき集計なし	-	5,656	30.4%	5,110	28.5%	-9.7%
	年間販売額	13,198,000	37.2%	-	-	11,681,600	36.0%	10,755,900	32.3%	-7.9%
	売場面積	118,039	43.9%	-	-	119,933	41.5%	117,952	36.8%	-1.7%
川越市全体	商店数	2,476	-	2,507	-	2,355	-	2,236	-	-5.1%
	従業員数	16,120	-	18,243	-	18,607	-	17,902	-	-3.8%
	年間販売額	35,516,677	-	33,572,600	-	32,469,902	-	33,308,202	-	2.6%
	売場面積	268,839	-	282,972	-	288,881	-	320,170	-	10.8%

注. 実数単位 / 商店数:店、従業員数:人、年間販売額:万円、売場面積:m²
 商業統計調査に基づく集計。
 中心市街地については、同調査の商業集積地から中心市街地に存する商店街分を集計した。

	平成 21 年度		平成 24 年度		
	実数	シェア	実数	シェア	
中心市街地	事業所数	755	33.7%	730	35.2%
川越市全体	事業所数	2,240	-	2,075	-

注. 経済センサスに基づく集計。
 中心市街地については、同調査の商業集積地から中心市街地に存する小売事業所分を集計した。
 経済センサスと商業統計調査では、名簿や調査方法の違いから、集計対象等が異なっている。

イ 大規模店舗の出店状況

中心市街地に立地する大規模店舗は、平成 17 年度以降、11 店舗 99,263 m²のまま変化はない。

一方、中心市街地以外に立地する大規模店舗は、平成 20 年度から平成 25 年度までに 9 店舗、店舗面積にして 38,708 m²の増加となっている。

また、隣接自治体における平成 21 年度以降の大規模店舗の出店は、6 店舗、17,289 m²増加している。平成 16 年度から平成 20 年度までの 18 店舗、138,936 m²と比べると増加傾向に鈍化がみられる。

【市内の大規模小売店舗一覧】				(単位:㎡)				
No.	店舗の名称 (大規模小売店舗立地法上の名称)	所在地	中心 市街 地内	20年度(4月1日現在)		25年度(4月1日現在)		
				有無	店舗面積	有無	開店年月	店舗面積
1	丸広百貨店 川越店(丸広本社)	新富町2-6-1			26,156		S39.10	26,156
2	丸広百貨店・アルマルロ(アル)	脇田町2-21			21,129		H02.05	21,129
3	本川越ハハ(西武本川越ステーションビル)	新富町1-22-1			13,050		H03.09	13,050
4	川越マイン(川越駅前脇田ビル)	脇田町103			9,436		S57.11	9,436
5	丸井 川越ショッピングビル(川越モディ)	脇田町4-2			7,847		S48.11	7,847
6	まるひろ川越店アネックスA(旧 長崎屋サンショッピングセンター川越店)	新富町2-9			6,190		S49.03	6,190
7	ロザース 川越店	脇田新町11-11			5,006		S52.07	5,006
8	㈱イトーヨーカ堂 川越店	新富町1-1-20			4,193		S42.11	4,193
9	イザラス 川越店	福田1015-1			3,057		H08.10	3,057
10	ライフ川越霞ヶ関店(旧 東武ストア霞ヶ関店)	霞ヶ関東1-1-12			3,034		H10.11	3,034
11	ヒノデビル	砂944-1			2,850		S62.06	2,850
12	ミニマート神明町店(小川ビル)	神明町4-4			2,605		S55.07	2,605
13	川越いせはらショッピングプラザ	伊勢原町3-2			2,200		H09.05	2,200
14	フードパークセンター-VALUE川越天沼店(長嶋ビル)	天沼新田104-6			2,103		H07.11	2,103
15	コマ川越店	大塚新田3-1			2,038		H08.06	2,038
16	万代書店川越店(ラオックス川越店)	城下町12-1			1,973		H09.11	1,973
17	エコス川越霞ヶ関店	霞ヶ関北2-2-3			1,738		H17.01	1,738
18	ベルク(川越の場ショッピングセンター)	的場811-2			1,656		H04.10	1,960
19	ニューライフカクラ 川越店	的場831			1,494		S61.04	1,494
20	K SQUARE	脇田町9-3			1,493		H04.05	1,493
21	いなげや(山大ビル)	南台3-2-1			1,493		H07.12	1,493
22	いなげや 川越新河岸店(長谷川ビル)	砂新田89-1			1,443		S61.04	1,443
23	サミットストア 霞ヶ関店(鈴木ビル)	的場2222-1			1,362		S49.12	1,362
24	ファッションセンターしまむら 的場店	的場新町15-4			1,350		H07.12	1,350
25	ザ・100YEN PLAZA タイター(サンバード長崎屋川越新宿店)	新宿町578-1			1,239		S54.10	1,239
26	マルカ 川越店	脇田新町8-15			1,236		S53.05	1,236
27	ファッションセンターしまむら 川越新河岸店	砂新田74-2			1,159		H06.10	1,159
28	アルヘン 川越店	松郷858-10外			1,120		H05.12	1,120
29	ファッションセンターしまむら 笠幡店	笠幡107-21			1,030		S60.10	1,030
30	ウエス南古谷	泉町3-1外			21,759		H15.03	21,759
31	島忠川越店	松郷926-1外			15,925		H19.04	17,868
32	ヤオコー川越山田ショッピングプラザ	山田字東町2043-1外			6,538		H12.04	6,538
33	ケーステンキ川越本店(イトーセブ店舗ビル)	小仙波974-1外			3,801		H15.09	3,801
34	インテルナかわはた 川越店	大仙波635-1外			3,360		H19.02	3,360
35	ドン・キホーテ 川越店	小仙波938-2			3,300		H19.06	3,300
36	ルミネ川越店(JR川越ビル)	脇田本町39-19			2,603		H16.02	2,603
37	ベルク川越東田町店	東田町4-7			2,160		H17.06	2,160
38	ヤオコー川越新宿店	新宿町5-20-1			2,036		H19.08	2,036
39	ベルク南古谷店	並木264-1外			1,870		H13.12	1,870
40	オザム笠幡店	笠幡3714-1外			1,390		H15.05	1,390
41	ホレル高階	砂新田383-2			1,311		H10.04	1,311
42	サンドラッグ川越石原店(マルエツ石原店)	石原町2-54-2			1,198		S52.07	1,198
43	ニトリ川越店	豊田町3-12-1外					H23.11	7,722
44	ザ・マーケットプレイス川越の場	的場新町21-7外					H24.03	7,251
45	川越旭町ショッピングセンター(いなげや、しまむら)	旭町2-12-12外					H21.11	4,517
46	サミット川越藤間店(川越藤間ビル)	藤間215-6外					H21.02	3,772
47	ベルク川越むさし野店	むさし野17-9					H23.06	2,198
48	ABCマート、ブックオフ(ホームズタウン川越店)	小仙波689-1外					H21.03	2,194
49	生鮮市場TOP川越店	小室385-1					H24.11	6,679
50	ケーヨーデイツー川越店	新宿町5-13-1外					H24.09	2,463
51	ベルク川越小仙波店	小仙波町3-16外					H25.03	1,912
63	コメディイタ 上福岡店	藤間871			1,386			
61	いなげや川越旭町店(飯野ビル)	旭町2-12-6			1,422			
62	川畑家具(ジャンルホームセンター)	石田186-1			3,810			
川越市内大規模店舗面積計					45	204,549	51	238,886
中心市街地内大規模店舗面積計					11	99,263	11	99,263

【近隣自治体の大規模小売店舗】(埼玉県大規模小売店舗名簿(平成19年4月)より)			(単位:㎡)		24 (単位:㎡)			
No.	自治体名	店舗の名称(大規模小売店舗立地法上の名称)	所在地	店舗面積	開店年月	店舗面積	開店年月	
1	狭山市	イオン狭山店(カナル狭山)	上奥富1126-1外	18,472	H14.10	18,472	H14.10	
2		イオン武蔵狭山店(狭山ショッピングデパート)	人間川3-30-1	16,691	S54.11	16,691	S54.11	
3		ヤオコー狭山北入道ショッピングプラザ	北入道720-1	12,467	H12.12	12,467	H12.12	
4		ヤオコー田原(トコスショッピングセンター)	広瀬東2-4-1	7,132	H06.04	7,132	H06.04	
5		ベスト電器狭山店	下栗富59-1	4,640	H18.10	4,640	H18.10	
6		P.C.P.E.P.O.I.狭山本店(ラオカス新狭山店)	下栗富505-1外	3,691	H14.01	3,691	H14.01	
7		マルエツ人間川店(人間川ショッピングセンター)	中央2-1-1	2,656	S53.12	2,656	S53.12	
8		ベスト電器狭山店	富士見1-25	2,643	H04.04	2,643	H04.04	
9		関西友狭山市駅前店	人間川1-18-1	2,321	S47.11	2,321	S47.11	
10		ヤオコー入道店	水野463-1外	1,984	H15.01	1,984	H15.01	
11		ザ・ダイソー狭山店	広瀬東2-10-4	1,518	H17.11	1,518	H17.11	
12		Aコープ人間店	車入管628-1	1,502	H06.12	1,502	H06.12	
13		コープ狭山台店(ボレール狭山台)	狭山台2-29-1	1,347	H10.04	1,347	H10.04	
14		ベスト狭山B	人間川1209		6,220	H19.09		H19.09
15		ベスト狭山A	人間川1025		5,906	H19.10		H19.10
16		スカイテラス	人間川1-3-2		2,186	H22.03		H22.03
17		E.m.e.狭山市	人間川1-2792-1		1,920	H23.06		H23.06
18		家具の本匠(多田谷ビル)	人間川2-26-13	5,198	H05.09			
19		狭山市駅ビル(西武狭山ステーションビル)	狭山4-55	4,258	S54.04			
20		ホームセンターオザム狭山店	人間川3160-2	1,008	H05.10			
21	ふじみ野市	トナール橋本木井(仮称)大井町ショッピングセンター	西鶴ヶ岡1-13-15	24,439	H16.11	24,439	H16.11	
22		イオン大井店(大井サテイ)	ふじみ野1-2-1	24,240	H10.10	24,240	H10.10	
23		イトーヨーカ堂(上福岡ショッピングプラザ)	大原2-1-30	16,393	H11.10	16,393	H11.10	
24		関西友上福岡店	上福岡1-8-8	11,007	S59.11	11,007	S59.11	
25		メガモール上福岡店	鶴ヶ舞2-2-17	8,062	H17.03	8,062	H17.03	
26		ココナ上福岡ショッピングプラザ	鶴ヶ舞2-2-3外	4,417	H18.03	4,417	H18.03	
27		コジマNEW上福岡店(大塚ビル)	上福岡5-1134-1	2,694	H13.12	2,694	H13.12	
28		ザ・100円ショップダイソー	上福岡4-6-1	2,164	H12.05	2,164	H12.05	
29		ヤオコー上福岡鶴林店	鶴林294	2,093	H18.01	2,093	H18.01	
30		ベルク大井緑ヶ丘店	緑ヶ丘1-5-49	2,020	H15.10	2,020	H15.10	
31		東武ストア上福岡店	上福岡1-7-26	1,825	S47.10	1,825	S47.10	
32		サンドラッグ・ツタヤ(釜家ビル)	大原1-1-15	1,498	H13.03	1,498	H13.03	
33		うれし野モール	うれし野2-161	1,434	H15.10	1,434	H15.10	
34		生鮮市場TOP(マミーマート富岡店)	富岡42-5	1,427	H01.04	1,427	H01.04	
35		ファッションセンターしまむら大井町店	鶴ヶ岡2-1-1	1,251	H07.02	1,251	H07.02	
36		マルス百貨店	上福岡1-6-4	1,100	S45.04	1,100	S45.04	
37		リブラフクオカ(山崎ビル)	鶴ヶ舞2-6-12	1,046	S60.12	1,046	S60.12	
38		SHOPPING CENTER SOYOKA FUJIMINO	うれし野2-10-3		7,165	H05.11		H05.11
39		ジャパンホームセンター大井店	亀久保1239-3	7,782	H08.03			
40		アカトレットモリスム(大井富岡ショッピングモール)	うれし野2-10-87	7,165	H05.11			
41	鶴ヶ島市	わかふり	富士見1-2外	15,515	H16.06	15,515	H16.06	
42		カインズホーム鶴ヶ島店	三ツ木新町1-1-13	14,505	H14.05	14,505	H14.05	
43		ホボラ鶴ヶ島店(松原ビル)	鶴ヶ丘276-1	9,352	H18.09	9,352	H18.09	
44		エイズ鶴ヶ島店	三ツ木新町2-5-15	7,090	H17.06	7,090	H17.06	
45		大川家具鶴ヶ島店	三ツ木新町2-8-3	6,894	H16.06	6,894	H16.06	
46		エトリ鶴ヶ島店	鶴ヶ島6-1-14	5,203	H18.03	5,203	H18.03	
47		コモデイダ鶴ヶ島店	鶴ヶ島63-2	3,277	H09.04	3,277	H09.04	
48		ベルクおおひら店	大宇御折字前原1513-1	2,593	H07.10	2,593	H07.10	
49		いなげや鶴ヶ島店(町田ビル)	鶴ヶ島137-1	2,006	H04.09	2,006	H04.09	
50		ヤオコー本松南店	新町4-10-4	1,878	H14.09	1,878	H14.09	
51		ピパホーム鶴ヶ島店(トステムピパ鶴ヶ島店)	鶴ヶ島6-33-1	1,843	S56.07	1,843	S56.07	
52		メガマート鶴ヶ島店	上広谷40-7	1,762	S50.12	1,762	S50.12	
53		sera生活良品鶴ヶ島店	鶴ヶ島454-3	1,674	S50.08	1,674	S50.08	
54		ピパホーム鶴ヶ島店B館(トステムピパ鶴ヶ島店B館)	鶴ヶ島6-31-1外	1,420	H10.05	1,420	H10.05	
55		ファッションセンターしまむら鶴ヶ島店	上広谷438-1	1,225	H03.05	1,225	H03.05	
56		エコス川鶴店	松ヶ丘4-4	1,097	H02.06	1,097	H02.06	
57		ヤオコー若菜駅西口店	若菜852-1		1,626	H23.10		H23.10
58		ヤオコー・オリンピック(若菜ショッピングプラザ)	富士見2-3-1	6,414	S63.11			
59		イトーヨーカ堂坂戸店	日の出町5-30	8,492	S51.06	8,492	S51.06	
60		関丸広百貨店(坂戸ビル)	美師町28-1	7,194	S51.12	7,194	S51.12	
61	コモデイダ(坂戸)にっさいショッピングセンター	にっさい花みず木4-16	5,227	H09.03	5,227	H09.03		
62	関ヤマ電気テックランド坂戸店(津野田興産百貨店舗)	八幡1-17-35	4,575	H12.10	4,575	H12.10		
63	ヤオコー坂戸ショッピングプラザ	壬代田2-6-70	3,450	H12.09	3,450	H12.09		
64	ハット坂戸(坂戸専門店プラザ)	八幡2-2-7	3,077	H05.04	3,077	H05.04		
65	コジマNEW坂戸店	八幡2-5-31	3,000	H14.07	3,000	H14.07		
66	東武ストア北坂戸店	末広町2	2,806	S49.06	2,806	S49.06		
67	カインズホーム坂戸店	片柳2248-1	2,465	S59.12	2,465	S59.12		
68	マミーマート西店(西館)	にっさい花みず木2-14-1外	2,272	H15.04	2,272	H15.04		
69	カワチ薬品坂戸店	石井2333-1	1,970	H11.02	1,970	H11.02		
70	マミーマート西店(東館)	にっさい花みず木2-2-1外	1,872	H15.04	1,872	H15.04		
71	都市再生機構北坂戸団地中心施設	清瀬町1	1,795	S48.09	1,795	S48.09		
72	ヤオコー坂戸良店	良町3-2-1	1,680	H10.07	1,680	H10.07		
73	オザム坂戸店(川越総合センター)	栄332-3	1,485	H10.11	1,485	H10.11		
74	マミーマート壬代田店(わかばショッピングビル)	壬代田3-4-1	1,448	S58.12	1,448	S58.12		
75	ホームランドヤサカ坂戸店	美師町2373-1	1,428	S54.03	1,428	S54.03		
76	マミーマート東坂戸店(都市再生機構東坂戸団地中心施設)	東坂戸2-2-47	1,318	S52.04	1,318	S52.04		
77	富田家具坂戸店(富田家具ビル坂戸館)	南町5-15	1,317	S47.10	1,317	S47.10		
78	関カマイ坂戸店	片柳2211	1,287	H11.05	1,287	H11.05		
79	インテルナかわはた坂戸店	本町12-14	1,044	S54.10	1,044	S54.10		
80	ゲオ坂戸店	鎌倉町16-26	1,031	S62.01	1,031	S62.01		
81	キンカ堂坂戸店	日の出町5-25	2,019	S54.03				
82	ビックアーチ坂戸	片柳1531-1	1,975	S54.06				
83	ベイブひだかモール店	森戸新田88-5	1,710	H18.04	17,107	H18.04		
84	ファミリーまるひる日高店(加藤・比留間・大沢ビル)	上嵐山53	4,840	H11.10	4,840	H11.10		
85	ピパホーム日高店(ライヒボックス日高店)	嵐山551-1	1,496	H03.04	1,496	H03.04		
86	オザム高麗川店(高麗川ビル)	野々宮36-3	1,474	H10.07	1,474	H10.07		
87	ヤオコー高麗川店	嵐山308	4,072	S56.03				
88	東武ストア(こま武蔵台店ショッピングセンター)	武蔵台1-23-9	1,089	S53.04				
89	カインズホーム川島センター店	大字上伊草191-1外	11,320	H18.12	11,320	H18.12		
90	エイズ川島センター川島センター店	大字上伊草1175-1外	5,500	H18.12	5,500	H18.12		
91	ヤオコーしまむら(川島ショッピングプラザ)	大字中山1377-1外	1,800	H07.02	1,800	H07.02		
92	エイズ藤島川島センター店	大字上伊草1080	1,560	H18.12	1,560	H18.12		
93	葦原書店	大字上伊草1275-1外		2,100	H18.12		H18.12	
94	カインズスーパーキル川島	大字上伊草1275-1外	3,300	H18.12				

ウ 消費者動向

平成 17 年度と平成 22 年度の消費者動向調査の比較によると、消費者の動向は次のように変化している。

地元商店街で「ほとんど買い物はしない」比率が 9.9 ポイント上昇し、全体の約半数を占めている。「ほとんど毎日」の比率は 0.9 ポイント上昇しているが、「月に数回程度」及び「週に数回程度」の比率の合計は 6.2 ポイント下降している。

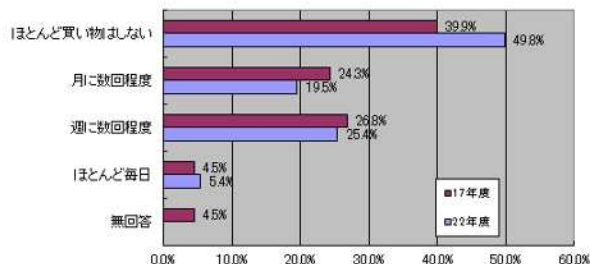
地元商店街で買物しない理由については、項目の順位に大きな変動はなく、「1か所で買物が済まない」、「駐車場がない」、「品揃えが少ない」等の理由が上位を占めているほか、平成 22 年度に新設された「地元で商店街がない」の比率が 37.4%と多くなっている。

日用品、食料品、果物・肉・魚・野菜などを主に買物に行く場所については、「食品スーパー」の比率が最も多く 8.4 ポイント上昇しているが、「一般の商店」は、1 ポイント減少している。

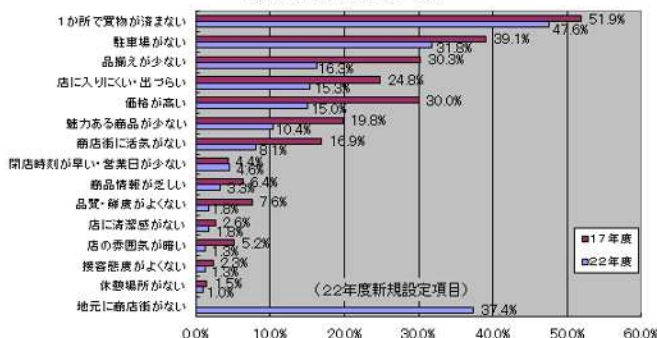
また、平成 22 年度に新設された「地元商店街が高齢化社会への対応として今後力を入れるべきと思うこと」については、小単位の販売や電話や F A X での注文・配達などが上位を占めている。

これらのデータは、市内全域でのデータであるため、中心市街地のみの状況とはいえないが、消費者の動向についても商店街から郊外に向かって拡大していることがうかがえる。

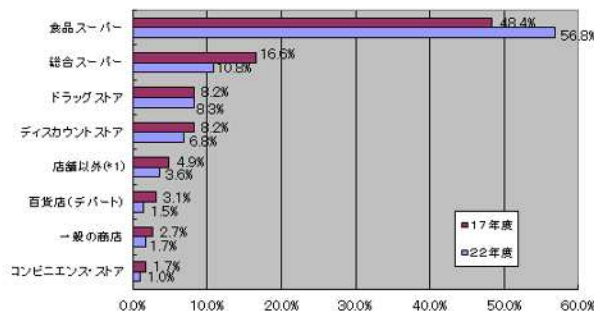
【地元商店街利用状況】



【地元商店街で買物しない理由】

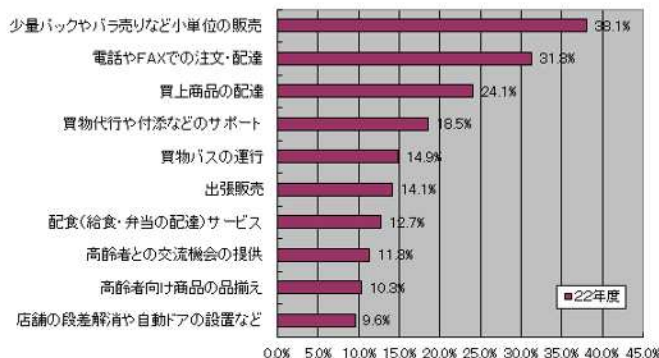


【主に買物をする場所】



* ……生協等の共同購入、カタログ販売、インターネット販売など
 ** ……A群(日用・家庭雑貨、一般食料品、調理済み食品(惣菜、弁当等)、果物・肉・魚・野菜)計よりH17とH22の比較可能な店舗

【地元商店街が高齢化社会への対応として今後力を入れるべきと思うこと】



エ 商店街の空き店舗数の状況

中心市街地に位置する商店街・商店会のうち、年度対比が可能な商店街・商店会（22商店街）の空き店舗数は、平成19年には70店舗であったが、平成24年には74店舗と5.7%増加している。特に元町1丁目商和会が140%増と大幅に増加している。

また、川越名店街、立門前商栄会、川越駅東口商店会では、中心市街地平均の3.5店舗、埼玉県平均の3.4店舗（平成23年度商店街経営実態調査（平成24年3月）埼玉県産業労働部）を2倍以上上回る高い水準で推移している。

元町1丁目商和会は中心市街地の北端、川越駅東口商店会は中心市街地の南端に位置している。また、川越名店街と立門前商栄会は結節地域に位置している。後述の歩行者・自転車通行量を見ると、周囲の通行量と比べて、当該商店街周辺の通行量は少なくなっている。

【中心市街地に位置する商店街の店舗数等の状況】				
区分	商店街名	空き店舗数		伸び率 19 24 %
		H19.5	H24.12	
歴史的町並み地区	元町1丁目商和会	5	12	140.0%
	鐘つき堂商店街	0	2	-
	川越菓子屋横丁会	0	0	-
	川越一番街商業協同組合	12	2	-83.3%
	松江2商店会	0	-	-
川越駅西口地区	仲町商店街	3	3	0.0%
川越市駅周辺地区	川越駅西口商店会	-	5	-
	六栄会	0	4	-
	柳通り商店街	4	5	25.0%
川越駅・本川越駅東地区	中原町商店街	0	2	-
	川越新富商店街振興組合	3	3	0.0%
	川越サンロード商店街振興組合	2	3	50.0%
	八幡通り商店会	0	0	-
	川越駅前商店会	-	3	-
中央通り周辺地区	川越駅東口商店会	10	9	-10.0%
	アトレテナント会	0	0	-
	川越名店街	6	7	16.7%
	松江町松栄会	-	4	-
	大正浪漫通り商店街振興組合	2	2	0.0%
	立門前商栄会	8	7	-12.5%
	中央通り2丁目商店街	2	1	-50.0%
	連雀町繁栄会	2	3	50.0%
	広小路商栄会	1	0	-100.0%
喜多院不動通り商店街	3	4	33.3%	
川越中央通り商店街	7	5	-28.6%	
【参考】平成19年度と平成24年度調査のデータ比較可能な空き店舗の集計				
区分	空き店舗数		伸び率	
	H19.5	H24.12		
比較可能な商店街の計(21商店街)	70	74	5.7%	
比較可能な商店街の平均(21商店街)	3.3	3.5	5.7%	
注1. 商店街名の網掛けは、H19とH24の比較が可能なもの。				

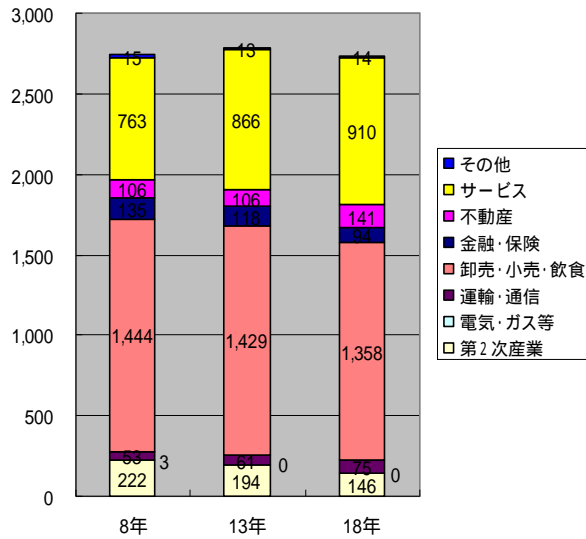
オ 業種別事業所数の状況

平成21年、平成24年経済センサスによると、中心市街地の事業所数は、平成21年から平成24年までの3年間で122事業所（5.3%）減少となっている。

ほぼすべての業種で減少傾向が見られる中、主な減少要因は、卸売・小売・宿泊・飲食業サービス業であり、71事業所（5.1%）の減少となっている。

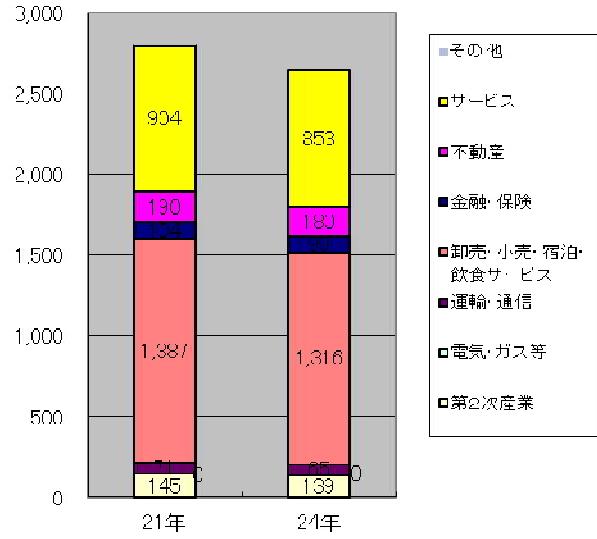
特に卸売・小売業や各サービス業は、にぎわい創出の要因となる業種であるが、卸売・小売・飲食業については平成8年から18年の間で減少傾向にあり、類似項目の卸売・小売・宿泊・飲食サービス業については平成21年から平成24年の間で減少傾向にある。また、サービス業は平成8年から平成18年までは増加傾向にあったものが、平成21年から平成24年の間では減少傾向となっている。

【中心市街地の業種別事業所数】



(事業所・企業統計調査)

【中心市街地の業種別事業所数】



(経済センサス)

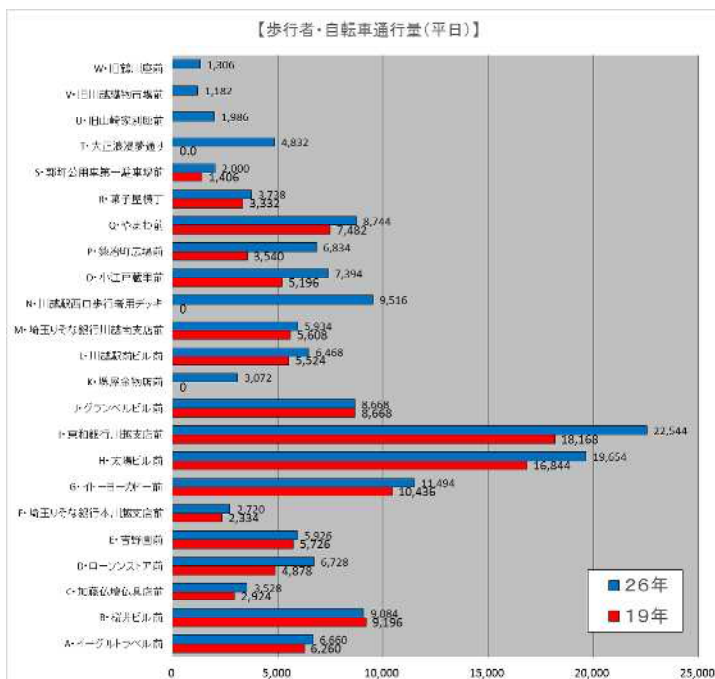
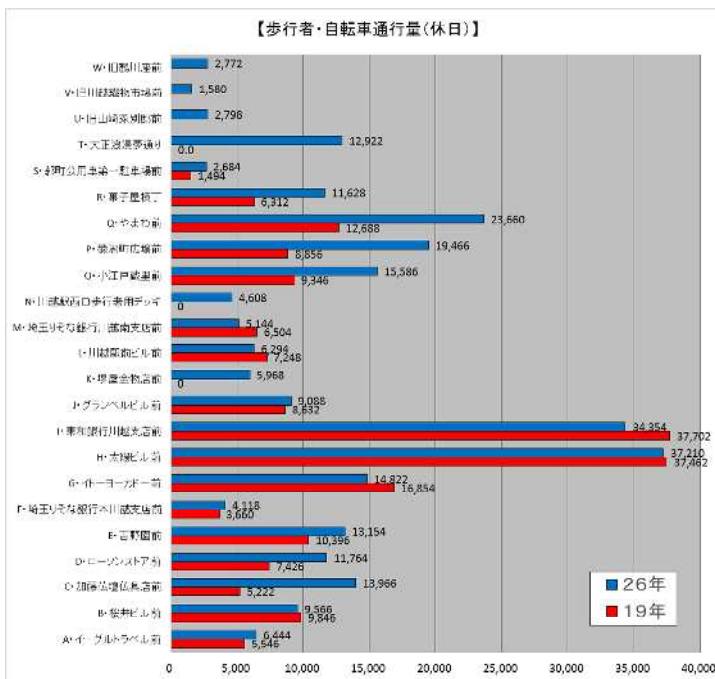
カ 歩行者・自転車通行量

中心市街地の歩行者・自転車通行量について調査結果を見ると、調査地点23地点のうち、やまわ前(Q地点)、菓子屋横丁(R地点)、鍛冶町広場前(P地点)、加藤仏壇仏具店前(C地点)、小江戸蔵里前(O地点)、ローソンストア前(D地点)、太陽ビル前(H地点)、吉野園前(E地点)、堺屋金物店前(K地点)、大正浪漫夢通り(T地点)、旧鶴川座前(W地点)の11地点は、休日の通行量が平日の2倍前後となっている。これらの地点は、観光客が訪れる観光場所又は観光場所との間で通過する地点や買物客が訪れるクリアモールに存在していることから、観光客や買物客が休日に多く訪れていることの現れと考えられる。

平日と休日の通行量の変化が少ない郭町公用車第一駐車場前（S地点） 桜井ビル前（B地点） イーグルトラベル前（A地点） 川越駅前ビル前（L地点） 埼玉りそな銀行川越南支店前（M地点） グランベルビル前（J地点）の6地点は、郭町公用車第一駐車場前（S地点）を除いて本川越駅又は川越駅近くに存在しているが、それぞれの駅の利用者による通行量が平日、休日ともほぼ一定に保たれていることによると考えられる。また、郭町公用車第一駐車場前（S地点）は、臨時観光バス駐車場と観光場所の間に位置しており、観光バスによる団体観光客が平日、休日に関係なく来訪していることによると考えられる。

歩行者・自転車通行量の多い地点は、商業地域である南部地域のクリアモールの東和銀行川越支店前（I地点） 太陽ビル前（H地点）が最も多く、次に観光地域である北部地域のやまわ前（Q地点） 本川越駅とクリアモールの間にあるイトーヨーカドー前（G地点） 一番街の南端

にある鍛冶町広場前（P地点）となっている。このように、平成19年調査時点と順番こそ違うが、中心市街地の南部地域と北部地域に歩行者・自転車通行量が多い地点が存在している。一方、中間の結節地域である堺屋金物店前（K地点） 旧川越織物市場前（V地点） 旧鶴川座前（W地点）にかけては、南部地域の商業と北部地域の観光に誘引される形となって歩行者・自転車通行量が少なくいわば谷間となっている。



歩行者・自転車通行量を平成19年と平成26年で比較が可能な調査地点17地点で比較すると、平日においては、鍛冶町広場前（P地点）で約93%増、郭町公用車第一駐車場前（S地点）が約42%増と、北部地域の休憩できる広場と、一番街と郊外型駐車場の間にある地点のほか、第1期計画で結節地域の回遊性の向上を目的に整備した小江戸蔵里前（O地点）が約42%増と、第1期計画で整備した3地点の通行量が大幅に増加した。

休日については、埼玉りそな銀行本川越支店前（F地点）から北側については大幅に通行量が増加した。特に歴史的町並み地区の4地点では約80%以上の伸びを見せている。一方で、南側については、本川越駅と川越駅を結ぶ動線上の3地点（イトーヨーカドー前（G地点）太陽ビル前（H地点）東和銀行川越支店前（I地点））の通行量が減少しているほか、川越駅西口地区の川越駅前ビル前（L地点）埼玉りそな銀行川越南支店（M地点）川越市駅周辺地区の桜井ビル前（B地点）の通行量が減少している。

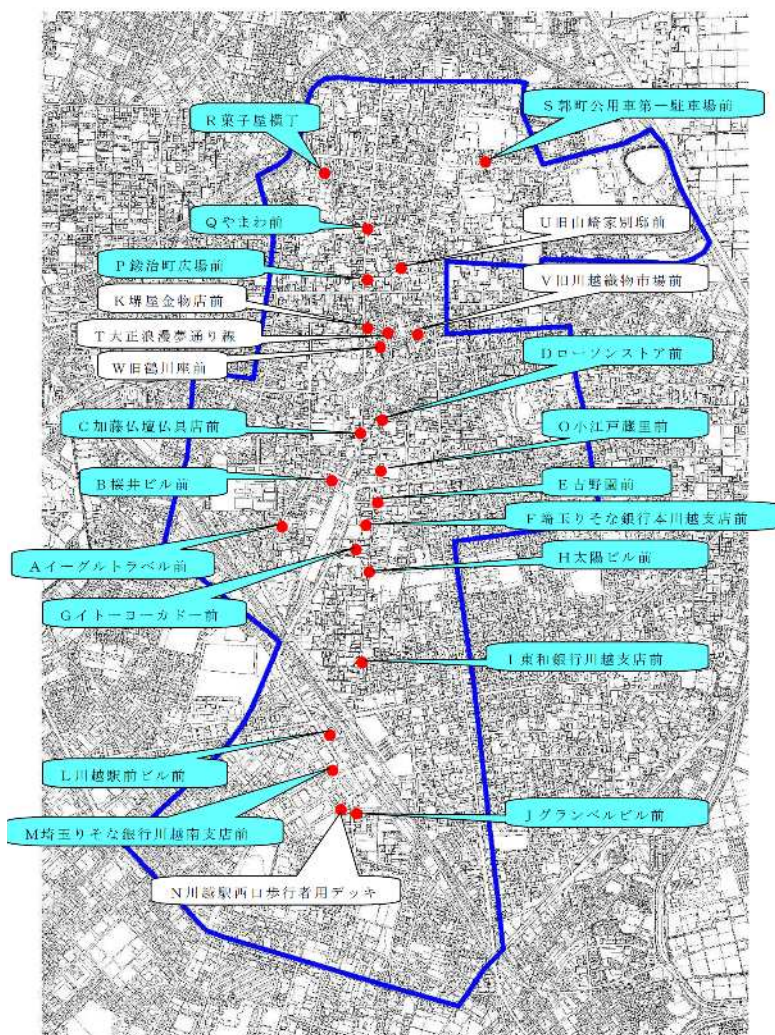
減少した6地点はどれも駅の周辺にあり、そのうち、埼玉りそな銀行川越南支店前（M地点）が約20%と減少幅が大きい。また、商店が密集しているクリアモールの東和銀行川越支店前（I地点）イトーヨーカドー前（G地点）の2地点は10%前後の減少である。

これらから、中心市街地の歩行者・自転車通行量は、観光客の増加というプラス要素はあるものの、買物客の減少や回遊性の低下といったマイナス要素も絡み合って推移しているといえる。

また、平日、休日とも通行量が増加し、周辺の通行量が軒並み10,000人を超える中、中央通り周辺地区の堺屋金物店前（K地点）旧川越織物市場前（V地点）旧鶴川座前（W地点）の通行量は著しく少ない。特に旧川越織物市場前（V地点）では、休日でも2,000人に満たず、また、堺屋金物店前（K地点）は、本川越駅と北部地域を繋ぐ中央通りに位置しているにも関わらず10,000人に満たない状況である。

比較的休日の方が、数値が高いことから、周辺住民が多少通行しているものの、多

【平成26年歩行者・自転車通行量調査地点一覧】（網掛けは対比可能な調査地点）



くは観光客、買物客が通行しているものと考えられる。

【歩行者・自転車通行量調査】		(網掛けは対比可能な調査地点、単位:人)								
中心市街地 地区	調査地点	平日			休日			平日・休日合計		
		19年	26年	伸率(%)	19年	26年	伸率(%)	19年	26年	伸率(%)
歴史的 町並み 地区	P 鍛冶町広場前	3,540	6,834	93.1%	8,856	19,466	119.8%	12,396	26,300	112.2%
	Q やまわ前	7,482	8,744	16.9%	12,688	23,660	86.5%	20,170	32,404	60.7%
	R 菓子屋横丁	3,332	3,738	12.2%	6,312	11,628	84.2%	9,644	15,366	59.3%
	S 郭町公用車第一駐車場前	1,406	2,000	42.2%	1,494	2,084	79.7%	2,900	4,084	61.5%
	U 旧山崎家別邸前	—	1,986	—	—	2,798	—	—	4,784	—
川越駅 西口地区	J グランベルビル前	8,668	8,668	0.0%	8,632	9,088	5.3%	17,300	17,756	2.6%
	L 川越駅前ビル前	5,524	6,468	17.1%	7,248	6,294	-13.2%	12,772	12,762	-0.1%
	M 埼玉りそな銀行 川越南支店前	5,608	5,934	5.8%	6,504	5,144	-20.9%	12,112	11,078	-8.5%
	N 川越駅西口歩行者用デッキ	—	9,516	—	—	4,608	—	—	14,124	—
川越市駅 周辺地区	A イーグルトラベル前	6,260	6,660	6.4%	5,546	6,444	16.2%	11,806	13,104	11.0%
	B 桜井ビル前	9,196	9,084	-1.2%	8,846	9,566	-2.8%	19,042	18,650	-2.1%
川越駅・ 本川越駅 東地区	E 吉野園前	5,726	5,926	3.5%	10,396	13,154	26.5%	16,122	19,080	18.3%
	F 埼玉りそな銀行 本川越支店前	2,334	2,720	16.5%	3,660	4,118	12.5%	5,994	6,838	14.1%
	G イトーヨーカドー前	10,436	11,494	10.1%	16,854	14,822	-12.1%	27,290	26,316	-3.6%
	H 太陽ビル前	16,844	19,654	16.7%	37,462	37,210	-0.7%	54,306	56,864	4.7%
	I 東和銀行 川越支店前	18,168	22,544	24.1%	37,702	34,354	-8.9%	55,870	56,898	1.8%
中央通り 周辺地区	C 加藤仏壇仏具店前	2,924	3,528	20.7%	5,222	13,966	167.4%	8,146	17,494	114.8%
	D ローソンストア前	4,878	6,728	37.9%	7,426	11,764	58.4%	12,304	18,492	50.3%
	K 塚屋金物店前	—	3,072	—	—	5,968	—	—	9,040	—
	O 小江戸蔵前	5,196	7,394	42.3%	9,346	15,586	66.8%	14,542	22,980	58.0%
	T 大正浪漫夢通り	—	4,832	—	—	12,922	—	—	17,754	—
	V 旧川越織物市場前	—	1,182	—	—	1,580	—	—	2,762	—
	W 旧鶴川座前	—	1,306	—	—	2,772	—	—	4,078	—
合計	対比可能地点(17地点)合計	117,522	138,118	17.5%	195,194	238,948	22.4%	312,716	377,066	20.6%
	全23地点合計	—	160,012	—	—	269,596	—	—	429,608	—
調査日:		平成19年6月17日(日)晴れ、6月14日(木)曇りのち雨								
調査時間:		平成26年5月25日(日)晴れ、5月29日(木)晴れ後曇り雨 午前10時から午後7時								